



ボールに賭けた青春…
栄光に背を向けて悔いない
ラスト・シュート!

●純粋な青春の愛と感動があなたの胸を打つ!

The story of a winner **ONE
ON
ONE**

ワンオンワン

ラモント・ジョンソン作品/ロビー・ベンソン/アネット・オトゥール/G・D・スブラドリン/脚本ロビー・ベンソン/ジェリー・シーガル/製作マーチン・ホーンスタイン
監督ラモント・ジョンソン/音楽チャールズ・フォックス/作詞ポール・ウィリアムス 歌■シールズ&クロフツ/ワーナー・ブラザース映画/テクニカラー From Warner Bros. A Warner Communications Company

オリジナル・サウンドトラック ■ ワーナー・パイオニア



ワンオンワン

ONE
ON
ONE

* かいせつ

「ヒリー・ジョー／愛のかけ橋」で若い映画観客の心をしっかり掴んだロビー・ベンソン。「ワン・オン・ワン」は、やっと20才になったばかりのロビーがみずみずしい感性で書きあげた初めての脚本に、自ら主演したラブ・ストーリーである。

高校バスケットボールの花形選手として鳴らし、その素質を買われて大学に奨学生として迎え入れられるヘンリー・スチールが、ロビーの創造した主人公。コロラドの田舎町出身のナイーブな青年は、大学のスポーツ・システムの実態に初めて直面し、当惑し、思い悩む。彼はまた様々な人間関係の中に巻き込まれ、恋を知る。彼を変え、真のおとなへと脱皮させたのはこの恋だった。

人生のターニング・ポイントに立った一人の若者。様々な経験を通して、彼は人生で何にもまして重要で、真の価値を持つものは愛と友情であることを知る。家庭教師としてヘンリーと知り合い、やがて彼の誠実に惹かれていく娘を演じるアネット・オトゥールは、映画ではこれが初の大役という期待の新人。

監督は「ラスト・アメリカン・ヒーロー」の俊英ラモント・ジョンソン、脚本の共同執筆者ジェリー・シーガルはベンソンの父で、プロのライター。「ワン・オン・ワン」は最初シーガルがアウトラインを書き、ベンソンと共同で脚本化したものだが、最終稿はベンソン自身の経験と考え方を大きく反映したストーリーになった。なお、若い主演者ベンソンとオトゥールを盛りたてるその他の出演者たちは、「ゴッドファーザー／PART II」のG・D・スブラドリン、「ウディ・ガスリー／わが心のふる里」のゲイル・ストリックランド、「新・動く標的」のメラニー・グリフィスなど…。

音楽はポール・ウィリアムス（作詞）とチャールズ・フォックス（作曲）だが、歌っているのは「思い出のサマー・ブリーズ」「ほとくのダイヤモンド・ガール」などのヒット・アルバムで知られるユニークな男性デュエット「シールズ・アンド・クロフツ」。映画音楽を歌うのはこれが初めて。テーマ曲とタイトル・ソング「ワン・オン・ワン」の他「今日のはほくの日」「愛はすべてに勝つ」「マイ・フェア・シェア」「ジョン・ウエイン」の四曲をたっぷり聞かせている。



* ストーリー

高校バスケットボールの花形スターとしてボール一筋の高校生活を送ったヘンリー・スチール（ロビー・ベンソン）は、四年間の奨学金を約束するというウェスタン大学に入学することを決意した。コロラド州の田舎町出身のこの有望な選手を迎え入れるために、大学はビカビカのスポーツ・カーまで贈ったのだ。

いざ入学してみると、大学の「ジョック」（スポーツ選手）の生活は、子供の頃から一人であるのが好きで、ただ黙々とバスケットボールに打ち込んできたヘンリーを戸惑せることばかりだった。

これまで一度も本気で学業に身を入れたことのない彼のために、家庭教師まで用意されたが、ジャネット・ヘイズ（アネット・オトゥール）というその家庭教師は「頭の悪いジョック」を軽蔑していた。彼女は落ち着いた気持でこの感じやすそうな新入生と向かい合うのだった。

やがて肝心のバスケットボールでも、ヘンリーはフラストレーションを味わうことになった。身長1メートル78の彼は、他の選手たちと較べると子供のようにチビだったし、せつかくの彼の技術や活躍も、チームワークがうまくいかなかったためにいつも空まわりだった。

数か月前には熱心に彼を口説いた。コーチのスミス（G・D・スブラドリン）の態度にも明らかに変化が見えてきた。チームの強化に異常な執念を燃やすスミスは、一度は未来のスター選手になると惚れ込んだヘンリーが思った程の成果をあげないのを見て幻滅していた。やがてヘンリーが奨学金を辞退することを拒んだ時、スミスは精神的にも肉体的にも彼を虐待し始めた。

だがそれまで皮肉な目でヘンリーを見ていたジャネットの方は、屈服しない彼の姿に初めて彼という人間の本质を見た思いだった。彼女の気持は次第に愛情に変わっていった。

試合中はベンチに坐らされ、遠征試合では留守番組に入れられるという日々が続いた。学業の成績で彼の奨学金の資格を取り上げてやろうというスミスの計画を出し抜くために、ヘンリーは生れて初めて試験勉強に打ち込んだ。ジャネットの愛情と励ましによって、彼の人生にはバスケットボール以外にもいろいろ価値あるものがあることを発見するのだった。

選手の多くがコーチのスミスによって体力と精神力の限界まで追いつめられてはいたが、ウェスタン大学バスケットボール・チームは順調に勝ち進んでいた。残る大試合は強敵テック校との決戦である。試合はげえなかった。ヘンリーはいつものようにベンチに残されていたが、途中でトラブルがあり、スミスは不承不承ヘンリーをコートに出させる破目になった。

ヘンリーの活躍は目ざましかった。目を奪う華麗で的確なテクニックで、彼はウェスタンに勝利をもたらした。熱狂した観衆は彼を担ぎ上げた。ヘンリーは遂に情勢を一変させたのだ。

試合の翌日、ヘンリーはスミスの部屋へ呼ばれた。今や満面に笑みを浮かべたスミスは彼のチームの「スター」に、これまでの待遇を改め、試合にどんどん出させること、奨学金を保証することを約束した。だがヘンリーはこの男から貴重な教訓を得ていた。彼はその場でチームをやめ、ジャネットと共に大学を後にした。

3月4日(土)ロードショー

新宿東映パラス (351) 3061

* 特別鑑賞券 ¥900 発売中!

● 伊勢丹斜め向い

連日 11:10 1:10 3:10 5:10 7:10

